

令和6年度第2回通常総会議事録

1 日時 令和6年12月16日（月）午前9時55分～10時50分

2 場所 JA熊本中央会10階会議室

3 会員総数及び定足数
総数8名、定足数5名

4 出席会員数 8名
(出席)

熊本県農業協同組合中央会代表理事会長	宮本 隆幸
熊本県農林水産部生産経営局長	徳永 浩美
熊本県経済農業協同組合連合会代表理事会長	丁 道夫
一般社団法人熊本県農業会議会長	福原 幸一
熊本県主食集荷協同組合理事長	赤星 和彦
(代理人) 熊本県市長会事務局長	古閑 茂雄
(代理人) 熊本県町村会事務局次長	瀬戸 浩一
(代理人) 熊本県農業共済組合共済事業部長	中林 裕一

5 議案等

(1) 議案

第1号議案 令和6年産米以降における熊本県の需要に応じた生産・販売
の基本方針の一部改正について

第2号議案 令和7年産米の作付け目安について

(2) 報告事項

令和6年度事業計画及び収支予算の変更について

令和6年度上半期内部監査報告について

(3) その他

6 会議の概要

(1) 定足数の確認等

司会から、総会における会員の出席状況について、当協議会規約第13条
第1項に基づき、会員の過半数の出席により成立すること、本日は会員総数

8 会員中、委任状による代理出席を含め全員の出席との報告があった。

続いて、宮本会長からあいさつがあった。

(2) 議事の経過の概要及びその結果

司会から、当協議会規約第 11 条第 2 項の規定による議長の選出について、これまでの慣例では協議会会長が議長となっていることを告げ、協議会会長を選出した。

(議長：宮本会長)

それでは、私の方で議事を進めさせていただきますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

はじめに、当協議会の規約により、議事録署名人を選任しなければなりませんが、私に一任いただけますか。

(議長一任の声)

(議長)

ご了解いただきましたので、議事録署名人を、経済連の 丁 会長、ならびに主食集荷協同組合の赤星 理事長をお願いいたします。

また、書記を、中央会の下舞統括にお願いします。

それでは、議事に入ります。

第 1 号議案と第 2 号議案については、関連しますので、事務局から一括して説明をお願いします。

(事務局：熊本県農林水産部農産園芸課 平田審議員)

資料により説明

(議長)

ただ今、説明がありましたが、第 1 号議案ならびに第 2 号議案について、ご異議はございませんか。

(議長)

主食用米が 30, 100ha ということだが、W C S とか飼料米から主食用米に移る状況でしょうか。

(県農産園芸課平田審議員)

資料に各地域協議会のそれぞれの面積を載せておりますけども、この中で、特に八代地域協につきましては飼料用米と加工用米等から主食用米への移行があっております。

(議長)

他にご質問等ございませんか。

(異議なしの声)

(議長)

異議もないようですので、第1号議案ならびに第2号議案は、原案どおり決定いたします。

次に、報告事項に移ります。

報告1について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：JA熊本中央会農政・営農支援センター 藤川所長)

資料により説明

(議長)

ただ今、説明がありましたが、皆様からご質問等ございませんか。

(質問等なし)

(議長)

それでは次に、報告2について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：JA熊本中央会農政・営農支援センター 藤川所長)

資料により説明

(議長)

ただ今、説明がありましたが、皆様からご質問等ございませんか。

(質問等なし)

(議長)

ご質問もないようですので、報告事項は以上になります。

最後に、その他ですが、全体を通して、皆様から何かございませんでしょうか。

来年の見通しはまだ出ないだろうが、どんなものでしょうか。

(JA熊本経済連中野部長)

本県の状況ということでお繋ぎをしますと、公表では作況102ということです。昨年が作況104でございましたので、本年の生産量につきましては前年から1,100トほど少ない148,600トということでございます。

各地域の肌感覚で申し上げますと、作況が102ということで、阿蘇地区が105、城北、城南の作況101ということで公表されておりますけれども、例年からすると、主食用米ではだいたい1俵～1.5俵くらい少なく、公表のような作況ではないというようなお話も聞きますし、もち米につきましては1.5～2俵くらい少ないのではないかなというような意見も多数聞いております。

また、10月末の検査の実績報告なんですけれども、前年からすると約8,500トほど減少しておるという状況でございます。今年は価格が高騰しておると

ということでございますので、保有米や縁故米だったりそういったウェイトが若干増えてるのかなと思います。

販売の状況でございますが、令和の米騒動というようなかたちの中で、20,000 円からどんどん値上がりをしていって 23,000、4,000 円ぐらいまでは価格が上昇していったという経過がございます。

集荷についても、だいたい計画の 7 割～8 割程度になるんじゃないかなろうかということで、地元の集荷業者さん、J A グループ以外の集荷業者さんも集荷が相当厳しい状況となっています。

(議長)

その米は、どこに行ったんでしょうか。

(J A 熊本経済連中野部長)

農家の保有米や、新規の集荷業者だったり土建業だったり青果業者だったり、新たな集荷業者が入ってきており、生産者に直接オファーも入っておるといような話も聞いております。

市場全体の米在庫が分散したというような形で、なかなかどこに行ったのかが分かりづらくなっているのが、今年の特徴ではなかろうかと思っております。

卸も年間販売量を確保できていない中で、現在、どうしても米卸から小売りのほうへ手当てをしないといけない、その手当てをする米もないという状況の中で、卸し同士での販売の売り買いをみますと、すでに 1 俵 30,000 円を超えてきているというような状況でございます。

10 月末の在庫数量を国が公表していますけれども、昨年から 45 万ト少なくて、近年でも相当少ない数字になっています。国の各月の報告を見ながら今後の状況というのは注視をしていく必要があると思っております。

今後の価格動向となりますと、見極めるのは難しいところがございますけれども、大手の卸業者もなかなか年間の取扱数量を確保できていないという事でございますので、春先くらいまではこの高騰したかたちが続いていくのかなとみております。

(議長)

赤星理事長、来年はどうでしょうか。

(県主食集荷協同組合赤星理事長)

7 年産米について、来年 5 月 6 月は、今年の春先あたりから始まったお米がないという状況が過熱して、6 年産米の不足感が相当出てくるのではないかと思います。全農さんとか経済連さんの枠を持たないような問屋さん、卸間売買がない問屋さんは、今年は、秋の集荷にも現場の方に相当県外からも入っ

てきているということですのでけれども、今年5、6月からの状況がトラウマになっていて、買い込んだ以上、1粒も表に出てこない。それが憶測やいろんな思いで、価格の上げが上げを呼ぶという状況になっているのではないかと思います。

また、今年は24,000円からスタートしましたが、来年は10,000円アップの34,000、35,000円からスタートという話が出てきております。

(議長)

なんでそんなに急に5年産が足りなくなったのか、米騒動になった原因はなにか、外国人が食べてしまったのでしょうか。

(J A熊本経済連中野部長)

需要と供給バランスで生産量が、当初、国が公表した数字では、去年の場合は新潟辺りの高温障害で精米歩留まりが相当悪かったということで、玄米の数字に比べ製品が相当少なくなっている。それと先ほど言われたインバウンドの増加の部分になると思われます。

(議長)

消費者がパンより米を食べる方が安いと思ったのではないかと、徳永局長いかがでしょうか。

(県農林水産部徳永局長)

今年の夏には確かにそれはあり、小麦粉関係が値上がりになったので米の消費が一時的に上がった。それと災害関係で南海トラフ地震情報が出された時に一時、買い占めがあった。インバウンドの関係もあり、その辺が全部、総合的に合わさってこのような状況になったのではと思われます。

(議長)

米が高いのは良いけどあまりに高すぎてドンと落ちるのはよくない。

(県農林水産部徳永局長)

そこを農水省も懸念して、今持っている備蓄米の在庫を出すというのには相当慎重になっていると思われます。

(議長)

備蓄米の話で、今年の米の価格が高い中、来年の備蓄米は高く設定するという話はあるか。

(J A熊本経済連中野部長)

備蓄米については入札制度で買取がされている。その年の状況を踏まえて7年度についてもまた価格は上がってくると思う。7年産についても買入価格がいくらか見定めたところで備蓄米に出すのか出さないのか判断されることになります。

(県農業共済組合中林部長)

今年はものすごく暑かったので 1 等米比率とかはどうなっているのでしょうか。

(JA熊本経済連中野部長)

今年は、1 等が 2 割、2 等が 8 割ぐらいで品質的にはほぼ例年と変わらないような検査状況です。銘柄で申し上げますと、「ヒノヒカリ」・「森のくまさん」あたりは 2 等中心の格付けになっていますけれども、「くまさんの輝き」については他の銘柄に比べて 1 等比率が高くなっています。このため、「くまさんの輝き」については、耐暑性品種という形の中で結果が出てるのかなというふうには思っているところでございます。

(県農業会議福原会長)

JA から集荷するのは 1 等米、2 等米、民間から流れているのは 1 等 2 等問いませんとされている。

それと、国関係の資料の中に食料システムというのを構築するというものがあつた。生産・流通・加工・小売り・消費の中で、生産者は生産者で、問屋は問屋でこれだけの利益になる、小売りは小売りで、それぞれに安定した形になるような食料システムの構築を検討するといったようなもので、それを 9 年産から実行していくような話を聞いた。

コメ価格が変動しすぎることが我々農家としては困るし、食管制度の廃止、ミニマムアクセスの導入の後、米価が下がっている状況が続いているなかで、関心を持っている。

(議長)

米を生産するのにいくら掛かっているか、この問題がいちばん農家にはある。現地を見に行った時に、中山間地の山の方で、米を植えてない状況で、本当に耕作放棄地がずっと増えている。高齢化が進むならまださらにひどくなる、機械を降ろすのも危険が伴うなど課題も多い。

(議長)

皆様から他に何かございませんか。

(意見等なし)

(議長)

他にないようですので、以上をもちまして、本総会の議事を終了いたします。議事進行へのご協力、大変ありがとうございました。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

令和6年12月16日

議長 宮本 隆幸 

議事録署名人 丁 道夫 

議事録署名人 赤星 和彦 

